もう一つの〝政府〟軍部……1
二つの国／明治国家の再統合の道／統帥権の独立／戦時下の軍部と内閣
悪としての「財閥・官僚・政党・軍閥」……17
――逆光のなかのエリート・グループ――
はじめに／「財閥・官僚・政党・軍閥」そして「閨閥・学閥」／「国体破壊の元兇」／「自己」と「国体」――「影」と「国体破壊の元兇」
宇垣内閣の流産……31
〝政界の惑星〟宇垣一成／大命降下と陸軍の反対／組閣の挫折
林銑十郎稿『近代内閣走馬燈』について……39
第三五代　平沼内閣（自昭和一四年一月五日　至昭和一四年八月三〇日）……77
――第二次戦時内閣の模索――
一　平沼内閣の性格と平沼騏一郎……78
(1)　第一次近衛内閣の延長としての平沼内閣／(2)　平沼騏

一郎の経歴
二　「近衛―平沼交流内閣」の誕生……83
(1)　近衛の指名／(2)　平沼の出馬／(3)　平沼の姿勢
三　平沼内閣の閣僚……90
(1)　内閣の人びと／(2)　近衛の無任所大臣就任
四　平沼内閣の内政――生産力拡充と国家総動員……97
(1)　第七四議会／(2)　「国内革新政策」の放棄／(3)　生産力拡充計画の遂行／(4)　国家総動員法の発動／(5)　精神総動員運動の強化
五　平沼内閣の外政――「対支処理」と「対欧策」――……112
(1)　汪兆銘工作／(2)　天津英租界封鎖問題と日米通商条約の廃棄／(3)　防共協定強化問題
六　「複雑怪奇な情勢」と平沼内閣の退陣……126
(1)　独ソの接近／(2)　内閣の総辞職
念書を差し出した大臣たち……131

第三七代　米内内閣（自昭和一五年一月一六日　至昭和一五年七月二三日）……135
——異色の第四次戦時内閣——
一　米内内閣の性格と米内光政……136
(1)「現状維持派」内閣／(2)　米内光政の経歴
二「最後の切り札」の登場……142
(1)　近衛立たず／(2)　湯浅の奏請
三　米内内閣の閣僚……146
(1)　組閣／(2)　内閣の人びと
四　米内内閣と「国内問題」……152
(1)　第七五議会と斎藤隆夫演説問題／(2)　税制改革と物価・物資統制／(3)　精動機構の変更と官吏制度改革問題／(4)　内大臣の交代と枢密院正・副議長の人事
五　米内内閣と「支那事変処理」……179
(1)　汪兆銘政権の成立／(2)「桐工作」／(3)　自主的撤兵案の破綻
六　米内内閣と「国際問題」……188

(1)「自主的外交」の出だし／(2)「援蔣ルート」閉鎖の要求／(3)「南進政策」
七　新体制運動の展開と米内内閣の退陣……200
(1)　新党運動の進展／(2)　陸軍の倒閣工作
「語り過ぎない提督」の議会……207
みかどのさむらい――陸軍と海軍――……211
陸軍と海軍……211
「帝国陸海軍」／陸・海軍の風俗
誕　生……216
陸・海軍省の成立／大村益次郎／御親兵・鎮台・徴兵令／大海軍建設案
おいたち　一……223
対外軍備へ／陸軍の対清戦備／海軍の対清戦備／長の陸軍／薩の海軍
おいたち　二……237
日清戦後／陸軍の対露戦備／海軍の対露戦備／陸・海軍の

成人式
組織……246
軍政・軍令の二元主義／陸軍の三官衙／海軍の省部／師団と艦隊／学校
ビッグ・スリー……265
日露戦後／想定敵国と所要兵力／陸軍の軍備拡張／海軍の軍備拡張
軍縮時代……277
陸軍の軍縮／海軍の軍縮
破産へ……283
非常時陸軍／非常時海軍／陸海軍の抗争
解説（加藤陽子）……317